

バラ(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	ゆめ促進	べと病	灰色かび病	苗木立枯病	黒星病	さび病	うどんこ病	炭疽病	斑点病
アグロケア水	生物農薬	BM2		*c	-							◎		
インプレッションクリア水	生物農薬	BM2		*c	-							◎		
クムラス顆水	無機	M2		-	-							◎		
ハーモメイト溶	無機	NC		1	-			◎				◎		
ハッパ乳	他	NC		-	-							◎		
フルビカFL	A P	9		*a	5			◎		◎		◎		
アンビルFL	DM I	3		*a	7							◎		
サブロール乳	DM I	3		-	5					◎		◎		
サルバトーレME液	DM I	3		*a	7					◎		◎		
トリフミン水	DM I	3		*a	5							◎		
マネージ乳	DM I	3		*a	6					◎		◎		
ラリー乳	DM I	3		*a	5					◎		◎		
ルビゲン水	DM I	3		-	6							◎		
ポリオキシシナール乳	抗生物質	19		*a	8							◎		
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		-	5					◎		◎		
トップジンMペースト	ベンゾイミダゾール	1		*b	5	◎								
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		-	6					◎		◎		
エムダイファー水	有機硫黄	M3		*a	8		◎	◎			◎		◎	
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3		-	8		◎	◎		◎	◎		◎	
ステンレス液	有機硫黄	M3		-	8		◎			◎				
サンヨール乳	有機銅	M1		*d	8			◎		◎		◎		
オーソサイド水80	他	M4		-	8				◎	◎				
ダコニール1000FL	他	M5		-	6					◎		◎		◎
パレード20FL	他	7		*a	3					◎		◎		
カスミンボルドー水	抗生物質・無機	24・M1		*a	6							◎		
ラビライト水	ベンゾイミダゾール・有機硫黄	1・M3		-	5					◎		◎		
ポリペリン水	他・抗生物質	M7・19		*a	8			◎				◎		

*a:発病初期 *b:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後 *c:発病前～発病初期
*d:発生初期

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	チュウレンジハバチ	ゴマダラカミキリ	コガネムシ類	フラーバラゾウムシ	ハダニ類
スパイデックス	天敵生物	-		*a	-								施
コロマイト水	マコト [®]	6		*a	2								◎
ハツパ乳	天然物由来	-		-	-								◎
カスケード乳	I GR	15		-	3	ミ							◎
オンコルMC	カーハート	1A	劇	*a	3		◎						
ペンタック水	殺ダニ	2A		-	-								施
アドマイヤー1粒	ネコチノイト [®]	4A		*b	5		◎						
ダントツ溶	ネコチノイト [®]	4A		*a	4	◎					灌		
ダントツ粒	ネコチノイト [®]	4A		*a	4	ミ	◎						
ベストガード溶	ネコチノイト [®]	4A		*a	4	ミ	◎	◎					
マツグリーン液2	ネコチノイト [®]	4A		*a	5				◎				
テルスターFL	ビレスロイト [®]	3A	劇	-	3								◎
ベニカミキリムシエアゾール ロビンフッド	ビレスロイト [®]	3A		-	6					◎			
マブリック水20	ビレスロイト [®]	3A	劇	*a	2		◎						◎
プリンスFL	フェルビラゾール	2B	劇	*a	5	ミ			◎				
サンヨール乳	有機銅			*a	8		◎		◎				◎
オルトラン液	有機リン	1B		*a	5		◎		◎				
サイアノックス乳	有機リン	1B		-	6		◎						
ジェイエース溶	有機リン	1B		*a	5	◎	◎						
ジェネレート溶	有機リン	1B		*a	5	◎	◎						
スミチオン乳	有機リン	1B		-	6		◎					◎	
オレート液	天然物由来	-		*c	-		◎						
ウララ50D F	他	29		*a	6		◎						

*a:発生初期

*b:生育期

*c:発生初期～収穫前日まで

ミ:ミカンキイロアザミウマ

施:施設栽培 灌:株元灌注

バ
ラ

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 施設では過湿に注意する。 老化した花や罹病花等を除去する。 次の薬剤のいずれかを散布する。 ハーモメイト水溶剤 800倍 ゲッター水和剤●* 1000倍 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍 ポリベリン水和剤 1000倍 	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
黒星病	生育期	・発生前から次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000(FL) 1000倍 トップジンM水和剤● 1500～2000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍 ベンレート水和剤● 2000～3000倍 マネージ乳剤● 500～1000倍	露地栽培で春と秋に発生しやすい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
さび病	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍	初秋に発生が多い。
うどんこ病	生育期	・発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000(FL) 1000倍 ポリオキシシンAL乳剤 500～1000倍 パンチョTF顆粒水和剤●* 2000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍	春季及び秋季など、昼夜の温度較差が大きく、かつ夜間の湿度の高いときにやすい。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
根頭がんしゅ病	定植前	<ol style="list-style-type: none"> 接木部分や地際に傷をつけない。 次のいずれかで土壌消毒する。 ガスタード微粒剤* バスアミド微粒剤* いずれも20～30kg/10a 	*花き類・観葉植物での登録

バ

ラ

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤーフロアブル* 2000倍 オルトラン水和剤* 1000～1500倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍 	<p>バラは葉害がでやすいので、高温時や多湿時の散布はさける。</p> <p>*花き類・観葉植物での登録</p>
ミカンキイロアザミウマ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 2000倍 ベストガード水溶剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤# 2000倍 	#花き類・観葉植物のアザミウマ類での登録
チュウレンジハバチ	4～5月	<ol style="list-style-type: none"> 施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 発生を見たら次の薬剤を散布する。 <p>サンヨール(乳) 500倍</p>	幼虫ははじめ葉に群生しているので捕殺する。
ケムシ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 	ケムシ類とは、ガの幼虫で、一見して長い毛やトゲが全面にあるもの。
ネコブセンチュウ		<ul style="list-style-type: none"> 土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。 	
ハダニ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 1000倍 コロマイト水和剤 2000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 ペンタック水和剤# 1000～1500倍 マブリック水和剤20 2000倍 	<p>薬剤抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用をさけ、数種類の薬剤を選びローテーション散布を行う。</p> <p>*花き類・観葉植物での登録</p> <p>#施設栽培での登録</p>